

# あらた同窓會

平成27年 秋季号

平成27年11月23日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会  
学生会員向け会報

電話 099-285-8537



# 目 次

鹿児島県の観光と農学部	岩井 久	2
「食品会社の採用と商品開発」	藤崎 一幸	3
農学部の平成28年度改組について	境 雅夫	4

## ビバ・キャンパスライフ

### 生物生産学科

#### 作物生産学講座

「2年半の大学生活を振り返って」	作物(農場)研究室	学部3年	山崎 那生	5
------------------	-----------	------	-------	---

#### 園芸生産学講座

「大学生活での人とのつながり」	果樹園芸学研究室	学部4年	加茂 琢磨	5
-----------------	----------	------	-------	---

#### 病虫害制御学講座

「部活に捧げた4年間」	害虫学研究室	学部4年	松比良 駿	6
-------------	--------	------	-------	---

#### 家畜生産学講座

「大学生活を振り返って」	家畜繁殖学研究室	学部4年	安永はるか	6
--------------	----------	------	-------	---

#### 農業経営経済学講座

「大学生活で得たこと」	農業経済学研究室	学部4年	筒江 修平	7
-------------	----------	------	-------	---

### 生物資源化学科

#### 生命機能化学講座

「大学生活を振り返って」	生分子機能学研究室	学部4年	黒田 怜	7
--------------	-----------	------	------	---

#### 食品機能化学講座

「学生生活を振り返って」	栄養生化学・飼料化学研究室	学部4年	久松ちひろ	8
--------------	---------------	------	-------	---

#### 食糧生産化学講座

「大学生活をふりかえって」	植物栄養・肥料学研究室	修士2年	白川陽一朗	8
---------------	-------------	------	-------	---

#### 焼酎学講座

「大学生活を振り返って」	焼酎製造学研究室	学部4年	小平万瑠美	9
--------------	----------	------	-------	---

### 生物環境学科

#### 森林管理学講座

「大学生活を振り返って」	砂防森林水文学研究室	学部4年	松本 祐樹	9
--------------	------------	------	-------	---

#### 生産環境工学講座

「大学生活を振り返って」	生産環境工学コース	学部4年	上西窪瑠歌	10
--------------	-----------	------	-------	----

### 獣医学科

#### 基礎獣医学講座

「6年間の大学生活」	分子病態学分野	学部6年	中村 拓也	11
------------	---------	------	-------	----

#### 病態予防獣医学講座

「大学生活を振り返って」	動物微生物学分野	学部6年	吉田 周	11
--------------	----------	------	------	----

#### 臨床獣医学講座

「恩師との出会い」	産業動物内科学分野	学部6年	池堂 智信	12
-----------	-----------	------	-------	----

教育実習奮闘記	12
---------	----

インターンシップ体験記	14
-------------	----

介護体験記	15
-------	----

留学報告	16
------	----

編集後記	表紙裏
------	-----

## 鹿児島県の観光と農学部



岩井 久（農学部長）

この2か月ほど桜島が静かです。噴火しないと地下にエネルギーが蓄積し次の活動に繋がるとはいますが、さし当り、鹿児島市内も垂水市内、輝北町にも降灰が無いことが、有り難いです。秋も深まって空気が澄み、日中も夕暮れ時も素晴らしい雄姿を楽しませてくれます。桜島にまだ渡ったことのない人はいませんか？もしもまだでしたら片道15分のフェリーの旅を是非とも体験してください（必修科目です！）。錦江湾の海上から鹿児島市街地を眺めると、我々が「錦江湾カルデラ」の外輪山の裾や頂上にかたまって生活していることが納得できます。晴れば、右手に韓国岳と高千穂峰、左手に開聞岳が見えて、パノラマモードで撮って他県の友人に送信する価値があります。逆に東に目を移すと迫りくる桜島に圧倒されるとともに、自分らが、活火山を抱えながら60万人規模を有する世界に類のない都市の市民であることを再認識できます。対岸に着いたら、桜島ビジターセンターを訪れてみてください。海岸で桜島を仰ぎながら自前の天然足湯を楽しむことができます。ちなみに、農学部の学生ボランティアが数名、そこでお手伝いをしています。私は元々福岡出身ですが、学生時代と教員生活を合計して人生の半分以上の31年間ここに住んできた結果、この県の面白さの虜になってしまいました。

南薩方面に足を延ばすと、知覧の茶畑（開聞岳が絶景）、池田湖、フラワーパーク、長崎鼻を經由して枕崎、坊津（仏教伝来の地）、吹上浜（日本三大砂丘のひとつ）。北には言わずと知れた霧島山系と温泉地帯（日本で最初の国立公園）、また南の海上には海外でも有名なパワースポットである屋久島、その先のサンゴ礁に囲まれた奄美諸島や与論島。鹿児島で生まれ育った学生さんでもまだ訪れていない魅力が意外にあるのではないのでしょうか？また日本の2ヶ所のロケット発射基地は唯一鹿児島にだけある。先般のH2Bロケットの発射の際は夜間で天気が良かったこともあり、鹿児島市郊外の私の家の庭からも、成層圏に上がるオレンジ色の光の尾を観ることができ、鹿児島の住民だからこそその恩恵だと思いました。

近年は九州新幹線の効果もあり、中国や東南アジアのみならず、欧米からのバックパッカーの来鹿も確実に増えてきています。訪問客が上記の観光スポットと同じく興味を持つのが鹿児島の食文化です。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことも大きい。そこで、地域産の安全な農産物や加工食品をいかに正しく知ってもらうか、これが喫緊の課題です。先ごろの残念な例としては、EUが、イタリア・ミラノ万博に出品予定だった枕崎のカツオ節に対し、「いぶし」工程で生じる微量の発がん性物質や熟成に必須の菌類を理由にクリームをつけたことが記憶に新しいです。「旨味成分」、「麴」、「肝」、「もつ」など日本独特の食文化・単語を英語圏など別言語の人々に正しく理解してもらうのは至難の業です。

既にご存じのように、私たち農学部は、28年度から、「農業生産科学科」、「食料生命科学科」、「農林環境科学科」として新たな出発をします。改組の柱は、①農畜産分野の技術者や指導者の養成の推進、②食の安全・利用加工などの教育の強化、③地域環境の管理保全や災害対策に関わる人材養成の推進です。本県の場合これら全てが「観光」と強くリンクします。将来的に、本学部は、語学の素養を活かしながら、農と観光が融合した産業、いわゆるグリーン・ツーリズムや6次産業〔1次（生産）×2次（加工）×3次（販売）〕に関わる人材を輩出していく必要があります、その一方で、地域と連携しつつ、（皆さんも含む）そのような人材が安心して働ける職域を創出していかなければならないと思っています。

平成27年7月29日開催の学生向け講演会（要旨）



## 演題「食品会社の採用と商品開発」

藤崎 一幸

(昭和53年農学研究科修了)

鹿児島大学農学部の学生さんに私の会社人生の中において経験した採用及び商品開発に関する話を話し、就職やこれからの人生の一助になればと考え講演させていただきました。

### 1、採用（就職活動）についての助言（私的な意見）

#### ①採用に当たって会社が期待する人材

- ・健康であること。（部活経験、同好会などスポーツ経験あれば有利である）  
病歴があれば、隠さず積極的に明示する方がよい。聞かれたときに正直に答える方が好感が持てる。採用後の健康診断時に明白になるよりはよい。  
あるいは、治療中もしくは完治と答える方が、好感が持てる。
- ・性格がよい。（素直である。個性的である。）  
会社は、奇人（変人ではなく、大きい可能性を持つ人）を求めている。
- ・能力がある。（資格を保有しているか取得中であることは、有利である）  
資格はなくても、取得しようという意欲が大事である。資格を取得する機会は入社してからも可能である。
- ・継続できること。  
継続は力なり。継続することにより信用が得られる。信用が得られれば仕事を任せられる。実績に繋がる。評価に反映される。昇格に繋がる。

#### ②採用試験の選考基準について（一般的事例）

- ・筆記試験（一般常識、専門、作文など会社により様々である）
- ・面接試験（面接者5人程度、部長職、役員など）
- ・筆記試験と面接試験の評価割合  
面接試験を重んじる傾向が強い。総合評価で同点ならば筆記試験のよい方を採用する傾向がある。  
筆記試験は、女子が男子より上位にくるが、面接で男子が挽回してほぼ並ぶ成績になることが多い傾向にある。現場からは男子がほしいとの要望が強い傾向があるが、男女不問で採用している。  
以前より給与の男女格差はなし、最近では育児休業が認められているため、長く勤務する女

子が多い傾向がある。（女子の就業環境は整備されている）

### 2、商品開発とマーケティング（一般的な事例）

#### ①商品開発の流れ

- ・消費者ニーズの調査：内部・外部の組織で現在の売れ筋商品を調査分析し、どんな商品をもどの消費者層に販売したらよいかを提案する。
- ・商品開発提案：ニーズ調査に基づいて具体的な商品の提案を行う。

#### ②商品開発に関する検討会における内容

- ・提案された開発商品を搾り込む
- ・開発スケジュールの検討
- ・開発商品の試作と中身の検討
- ・商品のネーミング及びパッケージの検討
- ・販売チャネルの検討
- ・宣伝広告・販促物等の検討

#### ③商品化までのスケジュール化と管理

- ・商品化までをスケジュール化し、管理する。  
例えば翌年の3月に発売することを目標にすると今年の9月からの作業日程を決定する。（何時ごろまでにどのような作業をするのか）

#### ④販売促進活動（セールスプロモーション）

- ・各チャネル（流通先）バイヤーへのプレゼンテーション（新商品紹介）
- ・新製品の納品と店頭でのマネキン販売

#### ⑤商品育成活動

- ・商品は、育てることが重要である。
- ・新商品が売れた場合の理由、売れなかった場合の理由を各々分析し、次の販促活動や商品開発にフィードバックし活用する。

#### ⑥商品開発の心構え

- ・商品開発に経営トップを巻き込み、全社的な取り組みを行う。

（理由）商品開発は忍耐とコストがかかる。  
経営を継続するためのキーポイント



## 農学部 of 平成 28 年度改組について

境 雅夫 (副学部長)

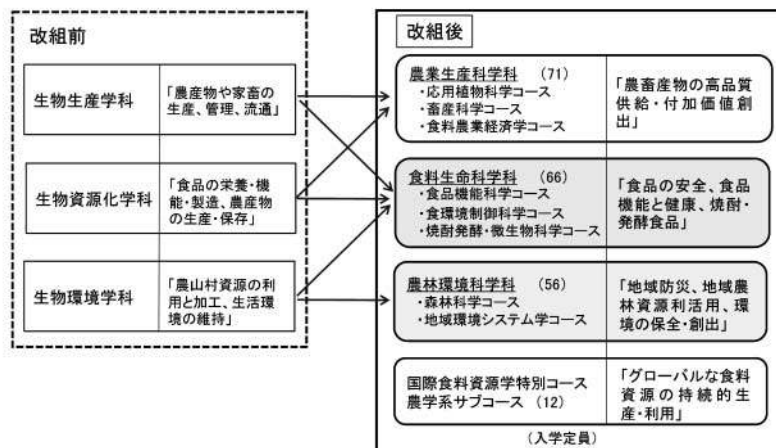
農学部では学部教育のさらなる充実を目指して学科の改組が行われます。学部の入学定員 205 名に変更はありませんが、平成 28 年 4 月から「農業生産科学科」、「食料生命科学科」、「農林環境科学科」の 3 学科と 1 特別コースの教育体制へと再編されます。

農学部は、これまでも鹿児島大学が立地する南九州という地域の特性を活かし、大学全体の理念と教育目標を基本に、農林業、食品産業等、食住農関連分野の技術者、地域指導者など、新たな時代の社会作りに貢献する人材の養成、フィールドでの教育を重視し、創造性に優れ、社会のニーズに対応できる人材の養成、分析力、総合力、企画力および実行力を有し、しっかりした職業観を備えた人材の養成、国際的視野を備えた人材の養成を行ってきました。

しかしながら、平成 2 年（9 年、一部コース再編）の農学部の改組後、世界や国内の社会情勢や農業事情は大きく変化し、それに伴い農学における教育研究の変革も求められる状況となっています。世界的には、開発途上地域における人口の急増・経済発展に伴う資源・食料の消費増大やバイオ燃料の増産など農産物用途の多様化などにより、農産物の国際的な需要は今後ますます高まることが予想されています。さらに、地球規模で自然環境の破壊と地球温暖化など人類の生存に関わる環境問題などが深刻化しており、世界規模での取組が求められています。また、国内的には、食料自給率の低下、農業就業人口の減少、農村地域の活力低下、食の安全などの問題が顕在化するとともに、「農業」という産業における次代を担うに相応しい新たな資質能力を持った人材が求められています。

このような状況のもと、平成 25 年度に鹿児島大学農学部ではミッションの再定義を行いました。その結果、地域性に基づくフィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた農林業、食品産業等および食住農関連分野の技術者・指導者などを育成する教育に努め、さらに、地域社会との連携に励み、世界に開かれた学部であることを目的としました。とくに、本学部の強み・特色を活かし、社会的役割を果たすため、農畜産物の安全安定供給や利用加工、特殊土壌および災害からの国土保全などの地域課題、ならびに地球的課題である温暖化対策に関する教育研究の推進を学部のミッションとしました。

農学部は、鹿児島大学の教育目標・人材育成目標の下に、農学部のミッションの再定義に沿って、学生の要望や新たな社会の要請に対応した教育課程を構築するため、新 3 学科 8 教育コースを設置します。また、平成 27 年度からスタートした農学部と水産学部が連携した国際食料資源学特別コースとともに、これまで以上に社会で活躍する人材の養成に取り組んでまいります。



# ビバ・キャンパスライフ

## 生物生産学科

### 作物生産学講座

#### 「2年半の大学生活を振り返って」



作物（農場）研究室  
学部3年 山崎 那生

入学して早くも2年と半年が経ちました。改めて大学生活を振り返ってみると、本当に反省することばかりです。

接客のアルバイトでは、言葉使いや臨機応変に対応することを学びました。しかし、自分のペースで接客をしていて、周りに迷惑をかけていたと思います。また、稼いだお給料も美味しいものを食べたり飲んだり、欲しいもの買ったりと、今思えば本当に勿体無い使い方をしています。しっかり貯金もしていれば今頃沢山貯まっていたはずです。あまり学校に行かなかった時期が何度かありました。あっという間に過ぎた1、2年生は遊ぶことしか考えず、テスト前が大変でした。こんな私のテスト勉強に、すごい文句を言いながらも付き合ってくれた友達には今でも感謝しています。

しかし、さすがに3年生になって研究室に配属されてからは、少しずつ気持ちも切り替わっていきました。就活をしている先輩方を見ていて、やっとなんか何か行動しないと！と思い、興味があった海外への研修に参加しました。研修で得たものは多く、特に時間を決めて行動するという習慣が身に付いて、有意義な時間の使い方が出来てきたことを実感しています。また、国際協力でもバイトでも何でも、人と親しくなることは思っていたより大事なことだと気がきました。一緒に働いている人達とチームワークを作ることはずごく重要なのだと身をもって知ることができました。

1・2年のときの自由に好きな事ばかりしていた生活もとても楽しかったのですが、やるべきことをちゃんと進めながら、たまにしっかり遊ぶ今の生活の方がとても充実しています。海外研修は生活を見直す良いきっかけになりました。大変なことも多いのですが、

もっともっと様々な場所に行って、経験値を増やして、残りの大学生活で新しい自分に進化したいと思います。

### 園芸生産学講座

#### 「大学生活での人とのつながり」



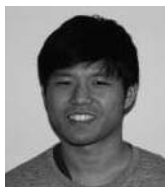
果樹園芸学研究室  
学部4年 加茂 琢磨

フィールドワークが好きだから。将来農業をするために役立つことをしたい。そんな理由で唐津という佐賀県の田舎から鹿大の農学部この生物生産学科に入学してから、4年が経とうとしています。私の大学生活を振り返ってみると、高校生活では経験することの出来ないような出会いを経験し、そして、人とのつながりを持てたと思います。例えば、この果樹研究室に配属されてから、私の父が果樹の試験場に研修生として通っていたところに山本先生にお世話になっていたことがわかったり、また、他大学との合同研修会では私の高校時代の友人が付き合っている人と出会ったりするなど、ここで繋がるのか、というような出会いの連続でした。さらに、先輩の研究の手伝い、また自身の研究のために、奄美大島や屋久島に向かい、現地で活躍されている研究室の先輩方との懇親会にも参加できて、新たなつながりができ、そして刺激を受けました。この時奄美で出会った先輩で、タンカン農家の方が、私の近所の知り合いの農家とカンキツの全国大会で会ったことがあるということも、また驚きの出会いでした。

学科やコース内でも日々の講義や実習を通じて多くの仲間と仲良くなれたと思います。農場実習で収穫したものを頂いたり、自主栽培の収穫物を共有して食べたり、バーベキューをしたりすると、とても農学部らしい学生生活をしているなど実感していました。授業以外の思い出では、福岡でもつ鍋を食べたり、富士急ハイランドに遊びに行ったり、ドライブやキャンプなどもした、そんな仲間たちと一緒に過ごせるのも残すところ数か月となりました。4月には私は実家で農業、他の仲間は企業に就職、または大学院、留学など進む道は違っていますが、この大学生活で得たつながりをこれからも大切に、またいつの日か再会できることを楽しみにしたいと思います。

## 病虫害制御学講座

### 「部活に捧げた4年間」



害虫学研究室  
学部4年 松比良 駿

私の大学4年間は正直、優等生が送るようなそれとは程遠いもので、今回、この記事を書くように依頼されたときには驚きました。

他の農学部の学生たちと違い私の大学4年間のほとんどは卓球部として活動した部活動に捧げました。「学生の本分は勉強」だとよく言いますが、私の場合は単位こそほとんど落とさなかったものの、その程度の勉強を試験前にすることしかせず、4年生になるまでは農業に関して自主的に学ぼうとすることはなかったと思います。

ところで、私には入学当初から大きな目標がありました。それは国立大学からの全国大会出場でした。と同時に、「国立大学の限界を超える」をモットーに日々の練習に打ち込みました。大学3年時には国体鹿児島県代表、4年では全国国公立大会ダブルス2位など学年を重ねるにつれて全国大会への道程がみえてきました。

そして、4年目にしようやく念願の全国大会の出場権を勝ち取ることができました。そのときすでに、他の4年生の部員は部活をしていませんでしたし、まわりからは、「4年なのにまだ部活をやっているのか。」と言われることもあり不安な日々が続きましたが、ついに大きな目標を実現することができました。

大きな目標を達成したことで、できそうにないことも本気で頑張ればできるときがあるということを実感し、人生における大きな自信になりました。

この目標の達成は自分一人では決してなしえなかったと思います。私のわがままに付き合ってくれた部員たち、部活に理解をもっていただいた教授方、そして毎日支えてくれた両親には感謝してもしきれません。

私は大多数の学生と違い部活に4年間で捧げましたがその4年間に微塵の後悔をしていません。この4年間はこれからも一生の財産になるでしょう。

## 家畜生産学講座

### 「大学生生活を振り返って」



家畜繁殖学研究室  
学部4年 安永 はるか

私の大学4年間で振り返ってみると、楽しいことも、嫌なことも、様々なことに挑戦し、とても4年間だったとは思えないほど短い時間を感じます。しかし、今までで、最も自分自身を成長させることができ、楽しく充実した貴重な期間だったと思います。この大学生生活を通して私は、自分が学びたいことを見つけ学んでいく面白さを知りました。大学は、高校までと違い主体的に自ら学ぼうとしなければ誰も何も教えてくれません。さらには、時間も自由もあります。だからこそ、勉強はもちろん、サークルやバイト、ボランティア活動にと、色々なことに全力で取り組み、楽しみました。そして、多くの仲間にも出会えることができました。また、この4年間で、畜産を学ぶことに対する考え方が大きく変わりました。

ある講義で、自分たちが育てた合鴨を最終的に屠殺し食べる過程がありました。実際に、生きていた合鴨が動かなくなり解体され、お店で売られているお肉と同じような姿になったのを初めて目にした時は、ショックを受けました。しかし、それと同時に私たちは命を頂いて生きているのだと強く実感しました。この日から、私の中で畜産に対する考え方が変わり、もっと知りたいと思うようにもなりました。実験等で解剖することも多くあり、初めは目を背けてしまうことがありましたが、命を頂いているからこそ感謝の気持ちを忘れず、最後まで目を背けず学ばなければいけないと考



えるようにもなりました。

また、サークル活動やボランティア活動、海外研修等にも参加しこれらを通して多くの出会いがあり、様々な人の価値観に触れることで視野も広がったように思えます。自ら行動に移し違う世界に踏み出すことで、自分自身の可能性も広がり自信にも繋がることを学びました。これからも、大学生活で学んだことを活かし何事も全力で楽しみながら挑戦していきたいです。

## 農業経営経済学講座

### 「大学生活で得たこと」



農業経済学研究室  
学部4年 筒江 修平

大学生活を振り返るとあつという間だったと感じます。私は大学に入学した時、大学でしかできないことに挑戦したいと考えていました。そんな私が選んだサークルが探検部です。探検部は主にアウトドア活動を中心に行っている部活動です。私は探検部で多くの経験をしてきました。球磨川で川下り、奄美大島でシーカヤック、八ヶ岳、屋久島で縦走登山、沖永良部で洞窟探検、沖縄の離島でサバイバルなどです。これらの活動を通して、部員との仲を深めるだけでなく、行動力や、決断力を身に付けることが出来ました。

そんな探検部の活動の中で一番思い出に残っている活動があります。それは自ら立案した北海道の大雪山縦走登山です。九州で生まれ育った私にとって、北海道はあこがれの地であり、ずっと行きたいと思っていました。大学3年の夏に部員3名と北海道の最高峰である旭岳とトムラウシ山を目指して縦走を行いました。しかし、悪天候や、準備不足もあり、トムラウシ山は登ることが出来ませんでした。大学4年の夏、就活が終わり、これから卒論に向けて頑張ろうとしていた私に、大雪山についてきてくれた後輩部員2人が去年登れなかったトムラウシ山に登りに行きませんかと提案してきました。社会人になれば北海道で縦走登山するチャンスはなくなると考えた私はもう一度北海道に行く決心をしました。残念ながら山頂では悪天候でしたが、無事トムラウシ山を登ることが出来ました。登頂した時の達成感は絶対に忘れることはないでしょう。

ついてきてくれた後輩には本当に感謝しています。

大学生活はやりたいことになんでも挑戦できる時期だと思います。もちろん私がいろいろなことに挑戦できたのは家族を含め、多くの人の支えがあったからだと思います。感謝の気持ちを忘れず、この大学生活で得た経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思っています。

## 生物資源化学科

## 生命機能化学講座

### 「大学生活を振り返って」



生分子機能学研究室  
学部4年 黒田 怜

鹿児島大学に入学して3年半が経ち、振り返るととてもあつという間だったように感じます。進学のために初めて鹿児島に来た私にとっては、何もかもがゼロからのスタートとなり、最初は不安でいっぱいだった事を覚えています。しかし、たくさんのお会いや、様々なことを経験する機会に恵まれ、充実した日々を送ることができました。

サークル活動やアルバイトは、協調性や責任感、そして何より仲間の大切さを学ぶための良い場所だったと思います。サークルの友達とは特に多くの時間を共に過ごし、数え切れないほどたくさんの楽しい思い出があります。2・3年生の夏休みに参加した、国際協力を学ぶためのタイ研修や、語学を学ぶためのニュージーランド研修では、現地の人と交流したり異文化を体験したりすることで、どれだけ自分が固定観念に縛られた狭い世界で生活しているかということに気付かされました。そして、広い価値観を持つことや積極的に物事に取り組む姿勢の必要性を実感しました。これらの経験は、今の私を形作るのに大きな影響を与えてくれたと思います。

3年後期から配属された研究室では、尊敬できる先生方や先輩、互いに高め合える友達と出会い、良い環境の中で研究に取り組んでいます。食を通して人々の健康維持に役立つ仕事をしたいということが、入学当初からの私の夢です。幸いなことに、それに関連する

## (8) あらた同窓会学生向け会報

テーマの研究に取り組むことができている。実験を進めていくうちに、より多くの知識や技術を習得したいと思うようになり、大学院に進学することにしています。離れていながらもいつも私を支えてくれ、夢を応援してくれる両親には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。あと2年半ある大学生活。関わる全ての人々への感謝の気持ちと向上心を持ち続けながら、今まで以上に充実したものにしていきたいと思っています。

### 食品機能化学講座

#### 「学生生活を振り返って」



栄養生化学・飼料化学研究室  
学部4年 久松ちひろ

卒業まであと半年を切り、入学当初は長いと思っていた学生生活が今ではあっという間だったと感じます。

大学に入って人生で初めてのアルバイトを経験しました。初めてのことでばかりで、失敗したりお客様からクレームを言われたりすることも多々ありました。店長や他のアルバイトのメンバーに助けられながら経験を積んでいく中で、仕事に対して責任を持つ事の大切さを学びました。

また2年時より所属したサークル活動は大きな変化を私にもたらしてくれたと感じています。高校までは多くの人との関わりを持つことに苦手意識を感じ、なかなか自分から他の人へ話しかける事ができませんでした。そんな私が入ったサークルは積極的にコミュニケーションをとり周りを楽しませてくれる、素晴らしい先輩ばかりでした。そのような環境で活動していく中で、「様々な立場や考え方を知るとは楽しい事だ」と学び、自分自身もどんどん積極的なコミュニケーションをとれるようになりました。

3年からは入学当初から希望していた食品機能講座へ進むことができ、後期からは研究室での生活が中心となっていきました。優しい先生方や頼りになる先輩ばかりですが、研究室へ入って一番感じたことは自主的に学びを見つけなければいけないということです。それまでは、ただ椅子に座って授業を受けていれば先生が何でも教えてくれますが、卒業論文作成や論文演

習では自ら考え疑問点を探し追究することが求められると学びました。

以上のように振り返ってみると、大学生活とは多くの経験を通して、様々な人と出会い自分を成長させる期間だったと感じています。残りの大学生活も、学業やサークル活動、遊びなど多くのことに全力で取り組み、今後の社会人生活に活かしていきたいと思っています。

### 食糧生産化学講座

#### 「大学生活をふりかえって」



植物栄養・肥料学研究室  
修士2年 白川陽一朗

大学生活を振り返ってみると、色々なことがあったなと思い出す。

大学1年で、鹿児島から北海道までの3600kmを自転車で旅をした。理由は人見知りを克服したいという気持ちからだ。旅では自分から出来るだけ現地の人や同じように旅をしている人に話しかけて、自分から積極的にコミュニケーションをとるように心掛けた。その結果、色々な人との出会いがあり、様々な価値観に触れることができ「人と話すことって楽しい!」と感じることが出来た。そして少しではあるが、知らない人にも自分から話しかけられるようになった。

大学2年生の時は、友人と台湾1周を自転車で行った。台湾は物価が安く、料理も美味しかった。また現地の人とコミュニケーションをとりたいと思い、中国語も勉強していったが、イントネーションが難しく思うように言葉で伝えるのは難しかった。ただジェスチャーや筆談を混ぜながらコミュニケーションをとると意外と通じるもので、台湾の人とも交流をすることが出来た。

そして3年生になり植物栄養・肥料学研究室に行くことにした。理由は作物と土壌の関係について勉強したいと思ったからだ。

大学院に進学してからは、学部の時と異なり自分で研究を進めることが多くなり、これまでの「ただ実験を行う」だけでは通用しなくなってきた。なぜこのような操作をするのか、なぜこの処理濃度で設定するの

かと「なぜを考えること」の大切さを学ぶことが出来た。

今は修士論文の実験を行っている。就活でなかなか実験を行うことが出来なかったので、残りの学生生活は研究に全てを注いでいきたい。そして納得のいく形で締めくくり、4月から社会人として働いていきたい。

## 焼 耐 学 講 座

### 「大学生活を振り返って」



焼耐製造学研究室  
学部4年 小平万瑠美

卒業まであと5か月弱の今、大学生活を振り返り強く感じることは、やりたいと思ったことは早めに形にすることの大切さです。

大学1年の9月、大学の集中講義のカリフォルニア研修で、日本のトップ大学の学生と共にシリコンバレーをまわり、同世代の彼らの思考している世界(アプリ開発、起業)に衝撃を受け、さらにはカリフォルニアの学生の真面目さとシリコンバレーで活躍する人々のエネルギーに圧倒されました。たった5日間の滞在が私の心に火を付け、日本に帰るとすぐに憧れていたファッションショーをゼロから準備して3ヶ月後に開催しました。ファッションショーの開催は私に自信を与え、さらに仲間と共にあらゆる形で地域活性化に携わりたいと考え、動画制作や動画配信、商業施設の館内マップや商品のプロデュースなどを行いました。これらはそれぞれ3か月程度の準備期間を経て実行していました。このスピード感が、短い大学生活の中で非常に重要であったと振り返ります。冒頭の言葉に戻りますが、やりたいと思ったことを形にするとそれに興味を持ってくれる人が集まってきます。形にするとその質的向上に助言を与えてくれる人が集まってきます。そしてやりたいことが本当の意味で叶います。そのスパンを早くすることで私は大学生活で多くの人に出会い、多様な経験ができました。

これは進取の気風が土壤にある鹿児島大学にきたから経験できたことです。これまでのイベント企画では何度も大学の先生方、事務の方に多くの助けや応援を頂きました。鹿児島大学であらゆる学びができたこと

に本当に感謝するとともに、今後は大学に対して貢献できるよう社会において成長したいです。

## 生物環境学科

### 森 林 管 理 学 講 座

### 「木質研究室と僕」



木質資源利用学研究室  
修士1年 早川 浩史

2年生時の春休みの実習で研究室配属が決まり、不安と期待に胸を膨らませ、木質研究室の扉を叩いた3年生の春からあと数カ月で3年という月日が経とうとしています。普段は真面目に研究活動や勉学に勤しんでいますが、時には羽目をはずし過ぎて迷惑をかけてしまう、そんな僕を優しく包み込んでくれる愛に溢れた木質研究での思い出を振り返り、研究室への思いをつづっていきたいと思います。

研究室に配属されたばかりで右も左もわからず、おどおどしていた僕の手を優しく引いて頂いた先輩方にはとても感謝しております。週に2・3回は飲み席にお呼び頂き、日本の林業の展望について熱く語り合った日々がいと懐かしく思えます。右手に白書、左手に一升瓶の先輩方も今では立派な社会人となり、時おり先輩方の日々のご活躍を小耳に挟んでは誇りに思う毎日です。今では、僕も大学院生となり多くの後輩たちを研究室に持つ身となりました。先輩方が僕に授けて下さった多くのものを少しでも彼らに還元出来ればと思っています。

また、僕は同期にとっても恵まれた存在でした。時には衝突もしましたが、今となってはそれもいい思い出です。前期の最後のゼミが終わったと同時に海へと走ったあの日、ドイツ研修後の延泊時のシェアハウス生活、週一で開催していた食事会、沖縄卒業旅行、どれもがとても楽しかったです。当時、膝の靭帯を断裂していた僕の卒論調査を全員が手伝ってくれもありました。今年から就職した者、大学院に進学した者も含め皆が新しい環境のなかで活躍できるよう、ここ鹿児島から応援しています。

去年、今年と僕にも後輩達が続々と来ています。

春になるといつも、新入生と上手く馴染めるのか、仲良くなれるのかと心配していますが、誰もが可愛らしい性格をしており、いつも仲良くして頂いています。4年生は卒論、3年生は学祭の高隈ソバ頑張ってください。

最後になりましたが、研究室の西野先生、服部先生には日ごろからお世話になっております。先生方への感謝の気持ちはスカイツリーの高さをも凌ぐものです。いつも失敗ばかりの僕に母親のように優しく接して頂き、日々迷走する僕に道しるべを授けてくれる存在です。あと1年ばかりお世話になる予定ですが、これからもよろしくお祈りします。

学生生活において研究室の選択とは一度きりの選択です。僕は非常に良い選択をしたと思っています。

## 生産環境工学講座

### 「大学生活を振り返って」



生産環境工学コース  
学部4年 上西窪瑠歌

憧れを抱いて入学した1年生の頃から早や3年、振り返ってみると沢山の経験を得ることができました。初めは分からないことばかりで戸惑いましたが、学科の集まりやサークルを通して楽しいことも辛いことも共有できる友人ができ、一気に大学生活が充実したものになりました。厳しい指摘をされることもありましたが、それが今の私を支える力になっているのだと強く思います。この大学生活で得た友人たちは、今後も一生関わっていききたい大切な人たちです。

私は大学入学当初から農学と教育学の両方に興味を持ち、専門の講義と同時に教職の講義も受けてきました。レポートが重なり忙しい時期もありましたが、将来教師を目指す上での選択でした。現在所属している生産環境工学コースでは農業土木分野を中心に学んできました。講義は私たちの身近にあるものを専門的な視点で見ることができ、興味を持つものばかりでした。最初は高校時代学んでいなかった物理に苦戦しましたが、コースの仲間と協力することで乗り越えてきました。現在、卒業研究として、人と農業との関わりについてコンピュータシステムを用いて研究する内容に取

り組んでいます。就職先は地元の教師として戻ることが決まりました。農業土木とは違う分野ではありますが、これらの知識や先生方から教わった物事の見方というのは、必ず活かされると思います。

卒業が近づくこの節目に「初心忘れるべからず」と父に小さいころから言われていたのを思い出します。残りの時間を卒業論文に向けて励むと共に、今できることに精一杯取り組んでいこうと思います。



## 獣医学科

## 基礎獣医学講座

## 病態予防獣医学講座

## 「大学生活を振り返って」

## 「6年間の大学生活」



分子病態学分野  
学部6年 中村 拓也

鹿児島大学に来て6年間、いろんなことがあったような、なかったような大学生活だった。ヒトと関わることが得意ではない私は、できるだけ他人と関わり合わないように大学生活を送ってきたつもりだ。

1年生から3年生までは自宅と大学（主に図書館）の往復で過ごしてきた。この時期にいろいろな本を読んだ。様々なジャンルの様々なヒトの考え方を私は読書を通して知ることができた。最初の3年間は私自身を見つめ直すとても充実した期間であったと思う。

4年生の研究室に配属されるようになってから、私の生活は自宅と研究室の往復に変わった。研究室に配属されてすぐに研究のテーマをいただいた。4年生の頃は、実験について経験がなかったので、先生や先輩方に教えていただきながら与えられた実験をこなしていく毎日だった。半年近く実験が上手くいかなくて同じ実験を続け、「私には実験のセンスがないのだ」とブルーになる時期もあった。そんなときに、先生や先輩方がアドバイスやご飯に連れて行ってくださったりして励ましてくださった。一つのテーマを3年間の時間をかけて研究していく面白さや厳しさもこの研究室で学ぶことができたと思う。

教科書を読んで知識を付けるのは、高速道路を車で移動しているようなものであるが、研究というのは一歩一歩踏みしめながら、ときには立ち止まりながらも前に進んでいくようなものであるというようなことがどこかの本に書いてあった気がする。私はこの両方を経験することができた。1年生から3年生は読書に明け暮れ、4年生から6年生は実験に明け暮れた大学生活だった。こんな素晴らしい大学生活を過ごせたのも6年間、学費や仕送りなどいろいろな面で私を支えてくださった両親と祖父母のおかげである。心から感謝したい。



動物微生物学分野  
学部6年 吉田 周

この文章を書くにあたり、大学生活を振り返ってみると本当に充実した大学生活でした。大学に入る前の自分が今まで送った大学生活の話を聞いたら驚くのではないかと思います。特に印象に残っていることについて振り返ってみたいと思います。

まず獣医学の勉強では志の高い仲間と囲まれ、わからないことや困った時があったらいつも助けてもらっていました。とても感謝しています。実習では何日も仲間と供に寝泊まりして過ごした牧場実習とNOSAI実習が特に印象に残っています。夜にみんなでふざけあったり、将来のことについて話したり、とても楽しくまた刺激を受けました。

大学生活の前半では時間に余裕もあり音楽系のサークルに入り、その活動に力をいれていました。みんなで楽器の練習を遅くまで行ったり、合宿をしたり、私はパートリーダーでもあったので演奏をまとめたり、どれをとってもいい思い出です。その中でできた友人はとてもかけがえのないものとなりました。サークルを引退した今でも交流があり、相談を聞いてもらうことがあります。またサークルでは様々な学部の人や後輩、OBの方とも交流があるので、異なる分野の話が聞けたり、アドバイスや意見をもらったりして自分の視野が広がったと思います。

大学生活の後半では研究室に配属され研究室の仕事をするようになりました。先生や先輩の実験の手伝いをしたり冬期には出水に飛来するツルの持つ病原体を調査したり直接動物と触れる機会は少なかったのですが、実験や検査をすることのおもしろさを感じました。この時はまだ将来どういった進路に進むか決めていなかったのですが、研究室で過ごした日々は将来の職業を決めるのに大きく影響したと思います。

充実した大学生活も残り数ヶ月で終わり、その後社会人として新しいスタートを切ります。期待も不安もありますが大学生活で体験した経験を生かし精一杯頑張っていきたいです。

臨床獣医学講座

「恩師との出会」



産業動物内科学分野  
学部6年 池堂 智信

あなたがこの6年間頑張ったものはなんですか？と尋ねられたときに、私は正直コレだと明言出来るものがない。だが、四年生からの3年間ということであれば、話は別である。

私は四年生の時に、その年に新設されまだ学生が誰もいなかった『産業動物内科学教室』の一期生となった。はじめは、先輩もおらず自分のやりたいことを好きに行えるだろうという甘い考えを持っていた。実際には、他の研究室だと6人の学生で行う作業と同程度の作業を2人で行わなくてはならず、時には20頭近い動物を飼育管理することもあり、思い描いた理想とはかけ離れた生活で、四年生の自分はやる気も力もなくしかけていた。

しかし、再び研究室を選べるならどこを選ぶかと考えると、やはり『産業動物内科学教室』を選ぶ。その最も大きな理由は恩師との出会いがあったからだ。私の担当教員をしてくださった野口倫子先生は、女性とは思えないほどパワフルで、曲がったことが嫌いな真面目な方だった。先生は動物に対する接し方や、成人した人間の仕事への姿勢など、私に獣医療の枠を飛び越えて様々なことを指導し、未熟な自分を常に厳しく正して下さり、また、臨床の道に進みたいからと研究に真面目に向き合わなかった自分に、研究や実験の大切さや面白さを体感させてくださった。自分もそんな恩師に憧れ、残りの3年間全力で研究室生活に励み、結果として4回の学会発表を行うなど、四年生の自分からは考えられない成果を得ることが出来た。

今現在の私の座右の銘は『常に真摯に』だ。目の前のことに決して手を抜かない恩師の背中から学んだ心得である。これから数え切れないほどの困難に私は出会うだろうが、この3年間で逃げない心の強さを学んだ自分なら必ず乗り越えられると信じている。最後に、恩師だけでなく私の学生生活を支えてくださった先生方、友人、先輩後輩、そして両親に感謝の意を表し結びの言葉としたい。

メモリー

～進路・就職に役立つ先輩の経験・体験談～

教育実習奮闘記



「教育実習を終えて」

生物生産学科 作物生産学講座  
作物学研究室 4年 宮崎 訓里

私は5月下旬から6月上旬の2週間の間教育実習を行った。約4年ぶりの母校は私がいた時とは大きく変わっていた。朝、学校に来ると生徒達は大きな声で挨拶してくれて、返すのが大変な程だった。ICT教育が始まっており、教室や実験室には電子黒板があり、生徒が皆タブレットを持っている環境に最初は違和感があった。私が実習を始めた時期は高校総体直前で部活に一生懸命な生徒が多かった。勉強がおろそかになりやすい時期だが、大学の話を聞いて少しでも刺激になれば良いと思った。

実習中の授業参観で担当の先生が易しく説明した後練習問題をし、翌日小テストをするという流れを見ていた。練習問題まではできる生徒が多かったが、小テストとなると基本を忘れたような回答が多くみられた。私の授業でも簡単に教えたつもりでも生徒はあまり理解できていないことがよくあった。そのため先生は何度も同じ範囲の小テストをして、小テストをするたびに基本に戻ることで理解を深めているのだと思った。授業計画を作る際、教科書を元に作るのだが教科書の内容が昔よりも深く理解できるので教科書を読むのが楽しくなった。初めて授業する時は余裕がなく机間巡視も忘れていた。授業をしながら生徒の様子を見ることは大変で、50分という短い時間をどう配分するか悩んでいたが、前回の復習を重視することにした。

今回、教員には授業以外に多くの仕事があることが分かった。出張、部活動の顧問、その他の雑務があり、部活動の一環で企業訪問している先生もいた。私は担当の先生が出張の間小テストの解説や訂正ノートの確認などをしたが、先生の仕事は思っていた以上に多かった。忙しい中、高校生とき、そして今回の実習を担当してくれた先生方に感謝したい。



## 「教育実習を終えて」

生物環境学科  
森林計画学研究室

4年 平 千加良

何となく大変そうというイメージは抱いていた教員という職業ですが、教育実習生という立場で帰ってくることで学生時代には気づくことのなかった多くのことに気づかされました。まず今回の教育実習全体を通して、教員の仕事の幅広さと膨大さを感じました。それぞれの教科指導は勿論のこと、校務、生徒指導、進路指導、保健指導、さらに担任、部顧問など教え切れない程でした。たった数回のしかも授業だけでも四苦八苦している私たちと比べ、先生方はいくつもの授業をこなされていてやはりプロだと実感させられました。

初めは緊張していましたが、甲南生はあいさつが素晴らしく、すれ違う生徒たちからあいさつを受け自分が先生であることを意識して少しずつ慣れていきました。また生徒に常に見られる立場であるため、お手本であるべきことを考えることで姿勢も自然と良くなり、日頃の自分を見直すきっかけにもなりました。

研究授業では実験をさせていただきました。学生の頃は実験には楽しくラッキーというイメージがありました。しかし試験管や薬品など全員分の道具の準備や授業や生徒の行動を考えた上でのプリントの作成、後片付けなどたった一回の授業でありながら必要なことがたくさんありました。また生徒たちを不安にさせない為にも自分の授業には自信を持つこと、教師であることにプライドを持たなければいけないのだと教えていただきました。流れの速い教育という場において、自信を持って授業を行うためには先生にも日々勉強することが求められていることを痛感させられました。

移り変わりが激しい教育の場においても生徒を大事にする気持ちなど変わらないものもある。教育の場は「不易と流行」であると校長先生が言われた言葉が印象に残っています。教育実習期間中、指導教官の先生をはじめ、お世話になった全ての方に対して感謝の気持ちでいっぱいです。2週間という短い期間でしたが、とても貴重な時間が過ごせ自らも成長することができました。

## 「教育実習を終えて」

生物資源化学科 生命機能化学講座  
生分子機能学研究室

学部4年 土屋理佐子

5月下旬から、私は母校で約3週間、教育実習を行いました。生徒にはじめて「先生」付けで呼ばれた時の高揚感は今でも鮮明に記憶してします。

右も左もわからない中で、実習生として、指導教員にアドバイスをいただきながら、3週間、懸命に生徒と向き合いました。私は、実習生が1人だったということもあり、不安を感じながらのスタートでした。

授業をする上で最も頭を悩ませたのは、教え、伝え、理解を促すことの難しさでした。授業内容を理解している自分と理解の及んでいない生徒のギャップを推し量りながら授業計画を練っても、必ず不備が出てしまいました。その度に、自分の不甲斐なさを痛感しました。

理科の授業では、「植物の根のつくりとはたらき」を指導するために、トウモロコシや、ホウセンカといった植物の植え替えをし、毎日水やりを行いました。実験中心の理科の授業では時間配分も大切です。予備実験を何度も行い、中学生には難儀な箇所は事前に処置を行うなど準備に多くの時間を掛けました。指導教員の指導のもと、生徒が関心を寄せやすいように動画を取り入れ、事前に生徒の意見を聞くアンケートを行いました。

中学校の授業では道徳を指導する機会もあり、自分の専門とは違うこととということも多く時間を掛けすぎてしまったように感じ、反省しました。私は、命に関する授業を扱い生徒から多くの発言得るのに苦労しました。生徒が発言しやすいテーマを選ぶことも意識しなければならなかったと感じました。

3週間という時間がありましたので、全教科の授業見学を行い、先生方の様々な工夫を凝らされている授業を見学できたことは貴重な機会となりました。また、私が在学していたころの先生がいらっしゃったことも関係して不安な箇所やわからないところを指導していただき授業の向上につなげることができたと思います。

教員側として普段の学校生活を通じて、「生徒が楽しく学生生活を送れたのは先生方のフォローがあってこそである。」と深く感じました。実習を経験して、私が教師になった際は、自分がしてもらった以上のことを生徒にして、生徒が学校生活を存分に楽しめるよ

うに心掛けたいと強く思うようになりました。

学校運営に関しても話を伺う機会がありました。改めて教壇に立ちながら、学校運営の役割を担う先生方に尊敬の念を送らずにはいられませんでした。そして、教える側にいるはずの自分が生徒からたくさんのことを学ばせてもらっていたことに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。加えて良い環境で教育実習を行えた貴重な経験は、生涯忘れることはないと思えます。この経験を生かしてこれからの人生をどのように過ごしていくのかを日々意識して毎日を過ごしていきたいと思えます。

## インターンシップ



### 「学外研修を終えて」

生物環境学科 生産環境工学講座

学部3年 中畑 遥香

私は紀伊平野農業水利事業建設所で2週間学外研修をさせていただきました。今学校で学んでいることが仕事現場ではどのように活かされているのか、また、将来働きたいと考えている地元和歌山県ではどのような農業農村整備事業が行われているのか学びたいと思い、この学外研修に参加させていただきました。

研修では、ダム・頭首工の現地見学や用水路の流量観測など、オフィスワークよりも、実際に現場へ赴いて作業をさせていただくことが多く、より実践的に学ぶことができました。作業中、講義で学んだことを利用することが多々あり、今学校で学んでいることの大切さを痛感しました。また、地区の農業施設を管理されている土地改良区の方々と、施設管理について協議を行いました。協議を進めていくのにあたって、コミュニケーション能力の重要性を感じました。

学外研修中、職場の方にはとてもよくいただきました。作業においてわからないことがあったとき、親身になってご指導をしてくださいました。また、お仕事についてのお話以外にも、社会のお話や地域のお話などをしてくださり、たくさんのことを教えてくださいました。

学外研修中の反省点としては、自分の知識不足を感じました。農業水利施設や測量技術に関する専門知識はもちろんのこと、地元地域についての知識不足も目

立ちました。専門知識を深めるのと同時に、地元の情報を積極的に吸収していきたいと強く感じました。研修を終え、この仕事に就きたいという気持ちがより一層強くなりました。今回学んだこと、感じたことを大切にしながら、今後の研究や就職活動に励みたいと思います。最後になりますが、私たち学生を温かく迎えてくださり、またお忙しい中お世話をしてくださった建設所の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



### 「インターンシップを終えて」

生物資源化学学科 食品機能化学講座  
栄養生化学・飼料化学研究室

学部3年 東園みさと

私は夏休みの5日間、鹿児島県環境保健センターの食品薬事部でのインターンシップに参加させていただきました。そもそも私は、技術職の公務員の方が日々どのような仕事をされているのか、全然知りませんでした。今回はそれを学ぶとても良い機会だと思ったので、参加させていただきました。

インターンシップでは、残留農薬検査や食品添加物試験、医薬品検査、牛乳及び食肉製品の規格検査、食品異物分析などを体験しました。実際の検査が一つ一つ国の定めた手順に従って行われていることに驚きました。

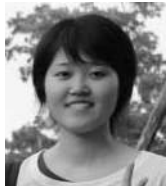
インターンシップに参加してみて私が一番感じたことは、自分は色々な面でまだまだ未熟だということでした。もっと大学での勉強に力を入れなくてはならないと痛感させられました。また、緊張のあまり自己紹介で失敗をしてしまったので、これからは話す内容を事前に十分にまとめておくことに気を付けたいと思います。

検査結果次第では、製造会社に行政処分が下される場合もあるので、検査の正確さが常に要求される仕事だと教えて頂きました。実際の検査手順を体験させて



いただき、その大変さを肌で感じることができました。機器や器具の使い方の知識はもちろん、出てきた結果を正しく考察する力も必要不可欠であると学びました。今回、普段はなかなか入ることのできない実際の職場を見ることができて、自分の視野を広げることができました。「興味がないから知らないままでいい」のではなく、知ろうとする姿勢が大事だと気付きました。この実習で感じたことや学んだことをこれからの大学生活や就職活動に生かして、自分を成長させていきたいと思います。

最後に、お忙しい中指導してくださった鹿児島県環境保健センターの皆様、本当にありがとうございました。



### 「インターンシップで学んだこと」

生物生産学科 園芸生産学講座  
果樹園芸学研究室

学部3年 古澤 典子

私は8月31日から5日間、鹿児島県農業開発総合センター野菜研究室でインターンシップをさせていただきました。ここをインターンシップ先として選んだのは、農業職に興味を持っていることと、社会で働く意味を考えたかったからだ。

インターンシップ中は、職員の方に付いて研究内容を教えていただいたり、全体で行われる農場の作業に参加したりした。私がこの5日間を通して学んだことは「仕事は自分から率先して見つけること」と「常に学ぶ姿勢を持つこと」の2つである。

インターンシップの初日は、緊張もありなかなか自ら動くことができず、指示されることが多かった。働いている方から「仕事は自分で見つけなければいけない、することが分からなければ聞くように」とのご指導を受け、2日目からは積極的に聞き、何もしていない状況になることがないように心がけた。このことから、仕事中は指示を待つのではなく、周囲の状況を把握して積極的に動くことが大切だということがわかった。

また、作業中にわからないことや、なぜそのようにするのかなど疑問に思うことがあったが、その時は思い切って職員の方々に尋ねるようにした。すると皆さんは丁寧に答えてくださるだけでなく、私たちが質問することによってさらに色々なことを教えてください、話も広がり大変勉強になった。また、インターンシップ中はその日に行った作業の内容や手順をその日のうちにまとめるようにした。すると後日同じ作業を行うことがあり、その時にスムーズに

動くことができた。これらのことから、わからないことは謙虚な姿勢で質問し、一度学んだことは確実に身につけることが大切だということを知った。

インターンシップで学んだこの2つのことは、仕事だけでなく、普段の生活でも重要なことであると思う。この5日間は、社会で働くことの楽しさと大変さを学べ、今後の進路を考える上で勉強になる、非常に充実したものであった。



### 「十勝 NOSAI 臨床実習を通して」

獣医学科 臨床獣医学講座  
獣医繁殖学分野

5年 柳 裕子

今回私は、北海道の十勝 NOSAI に2週間にわたって実習に行かせていただきました。北海道といえば、日本一乳牛が多いところであり、中でも十勝は特に牛の頭数が多い地域です。牛の獣医師を目指している私は、乳牛といえば北海道だし行ってみたい、という憧れもあり北海道に行ってみました。NOSAI に就職している先輩に実習に行くことを話すと、「きっと毎日へろへろになるぞ」と。実際に行ってみると、一つの診療所に獣医師が27人も所属しており、農家数も多く、診療件数も非常に多いので、様々な症例に出会うことができ、毎日とても充実していました。鹿児島は黒牛が多いですが十勝ではホルスタインばかりなため、北海道では見られることが多い病気も異なるのでとても新鮮でした。診療所には若い獣医師が多く、女性の獣医師も活躍されており、とても刺激を受けることができました。今回の実習でますます牛の獣医師になろうという意識が高まり、心に残る実習となりました。

## 介護体験記



### 「介護等体験に参加して」

生物資源化学科  
食糧生産化学講座 土壌科学研究室

学部4年 小野 祥子

私は、介護等体験で「武岡台養護学校」と「おとなの学校天保山橋校デイサービスセンター」に行かせていただきました。武岡台養護学校では高等部の授業の

お手伝いを任されました。高等部では先生方は生徒が自立する為に一人ひとりに合わせた指導を行い、生徒同士は互いを尊重し助け合いながら生活していてその姿が良いなと感じました。短い実習の間に私を「先生」として受け入れてくれ、恥ずかしがり屋な生徒たちも積極的に話に来てくれてとても嬉しかったです。また実習中に縦割りの班別活動がありました。私は農学部ということで園農班と一緒に活動しました。この活動の中で他の学年、クラスの生徒達とも話すことが出来、生徒たちが楽しそうに活動している姿を見て良い思い出になりました。

一方、おとなの学校天保山橋校デイサービスセンターは高齢者の介護などをする施設で、この施設は他のデイサービスセンターと少し違った認知症の方々が多く通う施設でした。この施設に来る人はいろいろなタイプがあり、話す内容や、対応も一人ひとり違うことをする必要がありました。そのため視野を広く持ち、誰が今どういう感情なのかを正確に読み取り細やかな気配りをすることが大切であることを学びました。授業で小学生時代得意だったけん玉を披露したり、一緒にラジオ体操を行ったりしてとても楽しかったです。また皆さんが昔の話を楽しそうにされていて、自分もこれから一生残る記憶を沢山作っていかうと感じました。

今まで「介護」とは身の回りのお世話をし、その人が不自由のないようにすることだと考えていましたが、介護等体験に参加したことで、「介護」はその人自身がこれから自立した社会生活が送れるように支援していくことなのだと分かりました。短い間でしたがこの体験に参加したことで「介護」を含め、社会人として必要なことを沢山学ぶことが出来、かけがえのない経験となりました。

スペインという国は、大変魅力的でもありました。

大学では、各国から集まる学生とともに主にビジネスについて学びました。ただ一人の日本人として「日本ではどうか」という自分で設定したテーマを意識しつつ、授業への積極的参加に努めました。スペイン語習得の意味も込めて、大学外でも多様に活動しました。バレーボールのクラブ活動、地元の幼稚園での英語ボランティア、ファームステイ、ヨーロッパ一人旅等、様々な発見、感情とともに一年間があつという間に過ぎて行きました。

異国の地で、誰も頼る人のいない環境に飛び込み、その中でもさらに新しいことに挑戦しつづけることで、能力、精神ともに大きな成長を遂げたと自身を持って言えます。

私が留学中に得た、自分の成長よりもずっと価値のあるもの、それは世界中との深い繋がりです。この一年間を楽しく、元気に、多様に過ごせた事は全て、周囲の人に恵まれたおかげだと思っています。出国以前と一番変わったことは、常に世界に目を向けるようになったことです。自分の大切な人の周りに起こっていることを知りたい、もしなにか困ったことがあれば助けたい。世界中との繋がりによって得られた広い視野を大切にしつつ、日本でも多様に挑戦していきたいです。



## 留 学 報 告



### 「留学体験記」

生物生産学科 農業経営経済学講座

4年 益満みのり

私は大学の交換留学制度を利用し、昨年の夏より、スペイン第三の都市バレンシアにあるバレンシア工科大学にて一年間勉強して参りました。なぜスペインか、英語と世界で4番目に話される言語であるスペイン語を習得できれば、もっと広い世界の人と話ができて、もっと広い世界を見ることが出来るのではないかと考えたからです。また、常に新しい場所で、新しい刺激を追い求めてしまう性格の私にとって、ヨーロッパにある

## 編 集 後 記

昼間はまだ汗ばむような陽気ですが、朝晩はめっきり涼しくなってきました。皆様、お変わりございませんでしょうか。鹿児島大学農学部では、これまで以上に社会に大きく貢献できる人材の養成を目指して、平成28年4月に改組が行われる予定です。農学部の現在の3学科「生物生産学科」、「生物資源化学科」、「生物環境学科」は、「農業生産科学科」、「食料生命科学科」、「農林環境科学科」の3学科に生まれ変わります。現在、農学部卒業生の岩井久農学部長の強い指導力のもと、教職員一丸となって改組の準備を行っているところです。鹿児島大学農学部とその卒業生には、社会からこれまで以上の大きな期待が寄せられることと思います。新しく生まれ変わる農学部に期待して下さい。

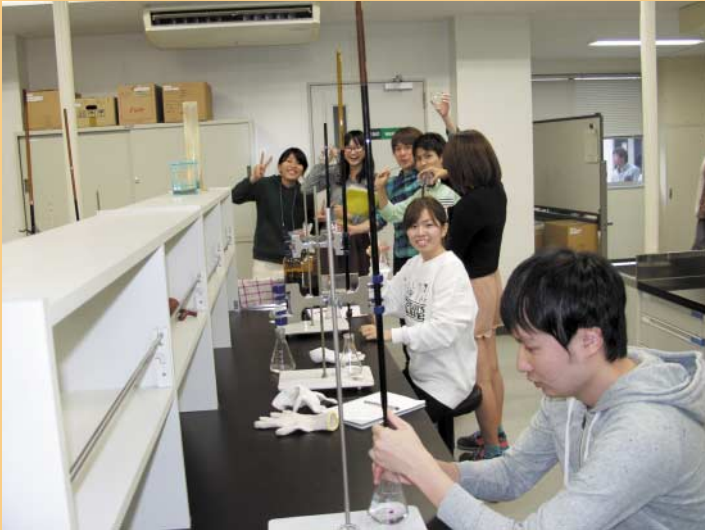
あらた同窓会会員の皆様におかれましては、100年以上の歴史を有し、1万人以上の優秀な卒業生を輩出している鹿児島大学農学部の素晴らしさを、多くの皆様にお伝え頂ければ幸いです。皆様には、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い致します。

(平成27年10月27日 文責 生物環境学科 寺本行芳)

### 鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24  
 TEL・FAX 099(285)8537  
 e-mail(aratakai@mc2.seikyuu.ne.jp)  
 振替口座 02010-2-876  
 事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印刷所 中央印刷株式会社  
 住所 鹿児島市春日町12-16  
 TEL 099-247-3300  
 FAX 099-248-0164  
 E-mail p-chuou@awg.bbq.jp



「基礎化学実験」の様子



「農村調査実習Ⅰ」の様子（長島町でのジャガイモの収穫作業）.



農場の西側に完成した市立病院